



戦後80年を経て、次

戦争や原爆の記憶が薄れゆく時代に、私たちはどう未来へ紡いでいくべきで、シンガーソングライターとして「平和のうた」を作曲した佐々木祐滋

言葉や生活習慣、宗教の違いがあっても、きちんと話し合いができる大人に育ってほしい

ほしの
星野 順一郎 市長

佐々木祐子さんが闘病中「生きたい」と願いながら、薬やキャラメルの包み紙で折った貴重な折り鶴

我孫子市と佐々木さんの縁

星野市長 佐々木さんに禎子鶴を寄贈していただいてからもう10年がたつんですね。アビスタに展示しているので多くの方が見て平和を意識するきっかけになっています。

佐々木さん 元々は、禎子おばさんの写真を借りたいという連絡がきっかけでした。そこからご縁があり、我孫子市が市民から折り鶴を集めたり、子どもたちを広島・長崎へ連れて行ったりという取り組みを知り、本当に衝撃を受けました。当時、まさに折り鶴を寄贈している時期だったので、ぜひ協力したいと強く思ったんです。あんなに大きく展示していただいてありがとうございます。



▲平和の記念碑や灯など、さまざまな平和の象徴がある手賀沼公園を巡る



▲禎子鶴の前で思いを語る

星野市長 子どもたちの話題になったり、禎子鶴を知らない人が気付いてくれるだけでもうれしいです。手賀沼公園を「手賀沼平和公園」にしないかと、提案があったぐらいなんですよ。

佐々木さん 本当ですか！広島の平和記念公園のように、そこで平和学習が成立する場所があるというのは素晴らしいです。それも市長の平和への思いに尽きると思います。思いを具現化し、市民と一緒につないでいくことは、なかなかできることではありません。

星野市長 私としては平和事業を通して、戦争にならないようにするためにどうしたら良いか、自分たちで考えないといけないと子どもたちに伝えています。

佐々木さんの平和活動

佐々木さん 音楽を通じて禎子おばさんことを伝えていく活動を今年で25年になります。僕自身も当初はひとことと思っていたのですが、音楽活動で父と都内の「平和のつどい」に参加した時「あなたも甥なんだから、関係ないことないよ」「歌を作って歌えばいいじゃない」と勧められて、今に至ります。平和活動を始めてからは禎子の甥として各地で話し、歌ってきました。父が持っていた禎子鶴をどうしようかと考えていた時、9.11同時多発テロの追悼センターから禎子の写真を掲載したいと連絡が来ました。

星野市長 そうだったんですか！

佐々木さん はい。それをきっかけに、写真だけでなく折り鶴も寄贈できないかと持ちかけました。鶴がアメリカに渡ったことは、僕の活動の大きな原動力になっています。活動を始めた当時、被爆者とアメリカ人の方が目の前で激しくぶつかり合っているのを見て、被爆二世として日米戦争でできた溝を埋める役割があるのではないかとずっと思っていました。これまで世界5カ国、20カ所に鶴を贈ってきましたが、アメリカには9.11追悼センターやハワイの真珠湾資料センター、ロサンゼルスの日系人博物館など、最も多く贈っています。特に昨年2月、最後の禎子鶴を寄贈した時のことは忘れられません。オバマ元大統領に折り鶴を直接手渡す機会を頂いたんです。日米の歴史的な溝を少しでも埋めたいという思いが通じた気がしました。折り鶴にはそんな奇跡を起こす力があります。折り鶴をきっかけとした「平和的なコミュニケーション」で、子どもたちが平和について学んでくれたらうれしいです。

くぶつかり合っているのを見て、被爆二世として日米戦争でできた溝を埋める役割があるのではないかとずっと思っていました。これまで世界5カ国、20カ所に鶴を贈ってきましたが、アメリカには9.11追悼センターやハワイの真珠湾資料センター、ロサンゼルスの日系人博物館など、最も多く贈っています。特に昨年2月、最後の禎子鶴を寄贈した時のことは忘れられません。オバマ元大統領に折り鶴を直接手渡す機会を頂いたんです。日米の歴史的な溝を少しでも埋めたいという思いが通じた気がしました。折り鶴にはそんな奇跡を起こす力があります。折り鶴をきっかけとした「平和的なコミュニケーション」で、子どもたちが平和について学んでくれたらうれしいです。

我孫子市の平和活動

星野市長 私が市長に就任する前から平和事業は始まっていましたが、初めて中学生と一緒に広島へ行ってみて、その意義を深く感じました。派遣する生徒数を増やし、今では成長し大学生になった派遣中学生OB・OGが自ら同行するほどになっています。

佐々木さん えー！自ら同行されてるんですか！

星野市長 そうなんですよ。派遣された子どもたちが、大きく成長していく姿を見るのは本当に楽しいですね。そしてこの派遣事業から生まれたのが「リレー講座」です。広島・長崎派遣を経験した高校生・大学生が「自分たちも子どもたちに伝えたい」と自ら提案し、スタートしました。この講座は市内全小学校の6年生を対象に行われ、親が参観したり、小学生が学んだことを家族に伝えたりすることで、家庭内での平和に関する対話にもつながっています。結果「中学生になったら派遣に参加したい」という子が増え、各学校の選抜がとても大変です(笑)。

佐々木さん それは大変だけれどうれしいことですね！

星野市長 すごいことですよね。そして中学生の時に感じたことと、大学生になって再び広島・長崎を訪れて感じることは違います。知識も増え、別の感情を抱く。それが、また違う考え方や行動につながるのは良いことです。

我孫子市はかつて手賀沼が汚染され、日本一汚い沼から脱却するのに27年かかりました。汚すのは簡単でも、元に戻すのは大変です。平和も一度壊れてしまうと、なかなか元には戻りません。市民の皆さんには、日頃から平和への意識を持ってほしいと思っています。



▲広島平和記念資料館の展示を見て当時の様子について考える中学生



▲被爆地に行き、現地で感じたことを我孫子第一小学校6年生に伝える派遣経験者たち

手賀沼公園・アビスタには広島・長崎から譲り受けた被爆アオギリ・クスノキ2世をはじめ、平和の記念碑、平和の灯、禎子鶴、陽光桜など、さまざまな「平和の象徴」があります。実際に見て、触れて、歴史を学び、未来へと紡いでいきましょう。



▲市HP